

なくてはならない中学生の力

「中学生の子たちが来てくれて、本当に助かりました！」
土曜日に行われた日吉地区の「風船飛ばし」に顔を出した私に、公民館長のA氏が開口一番にこう言われました。

この行事は、日吉幼稚園の園児たちが書いたメッセージを風船に付けて飛ばし、遠く離れた人たちとの交流を図るというものです。これまでには埼玉、東京、千葉、神奈川などの関東地方からも手紙が届いたようで、園児たちにとっては大きな喜びになりました。今回は一年生三名、二年生三名の参加がありました。私が顔を出したときには、風船にガスを注入し、ひもに手紙が付けられるように中学生が準備をしていました。ガスを扱うのは大人が行うとしても、手紙が付けられるように細かな作業は中学生が担当します。準備が完了した風船は、飛んでいかなないように別室に集められ、そこまで運ぶのも中学生の担当でした。六名の生徒は、楽しそうに準備に取り組んでいました。やがて、かわいらしい園児たちが、家族と共にやってきました。幼稚園はすぐ近くにあるので、父親や母親と手をつないでうれしそうに歩いてきます。風船の部屋に進んで風船を手に取り、いよいよ風船飛ばしかと思った時、「これぞ中学生！」という活躍が私の目に飛び込んできました。

風船飛ばしに足を運んだのは、園に通う前の小さな子もいました。また、何かの事情で遅れて参加した親子連れもいました。そういう子を見つけて風船を手渡すのが、中学生の役目でした。手に風船の束をもって、ところ狭しと駆け回ります。風船を手にしていない子供や親子をみつけると、積極的に近づき、笑顔で風船を手渡していました。

これは「中学生ならでは」の役割りだと思いました。走り回って風船を手渡すという簡単なことですが、これをもし大人がやるとしたら大変です。時間がかかったり、息切れしたりすることが予想されます。フットワークよく、笑顔で接する中学生だからこそ、渡される人も安心しうれしくなるのではないのでしょうか。

A氏が「本当に助かりました！」と言われたのは社交辞令ではありません。地域行事には、若い力が必要なのです。計画は大人でも、実践に中学生の力はなくてはならないことですね。

(十一月十六日 記)

